

## 第5学年3組 道徳指導案

指導者 太田奈月

- 1 主題名 世界の人々と共に生きる 【内容項目 4-(8)国際理解・親善と人類愛】  
資料名 『みんな仲よく?』(自作)  
『日本の援助隊、発見した遺体に黙祷』(新華社通信記事)  
[http://news.xinhuanet.com/photo/2008-05/17/content\\_8190936.htm](http://news.xinhuanet.com/photo/2008-05/17/content_8190936.htm)

### 2 主題について

国際化社会においては、自国文化理解を深めるとともに、自分の国とは異なる外国の文化を理解し、尊敬の念を持つことが重要になっている。そして、日本人としての自覚を持ち、積極的に外国の人と接して国際親善に努めることが求められている。

しかし、現在の児童を取り巻く環境を見ると、英語に親しむことはあっても、それ以外言語に目を向ける機会は少ない。「世界には様々な文化があり、尊重しなければならない。」「外国と協力しなければならない。」といった姿勢に理解を示すものの、実践には至っていない。また、欧米の文化の賞讃とアジア諸国へのマイナス面の指摘が著しい。特にテレビにおいて、中華人民共和国の日本への高圧的な態度や中国国内のメディア統制といった報道が繰り返され、「中国は良い国ではない。」といった考えが定着してしまっている。

そこで、世界のあらゆる国の人々が、自国と同じようにそれぞれの国の伝統と文化に愛着や誇りをもって生きていることを理解し、これを尊重し、国際親善に努める態度を身につけさせたい。

21世紀を迎えた今日、国際化の進展に伴い日本の社会は、多様な民族、多様な文化をもった人々と向き合い、共に生きていかなければならない状況に直面している。このような多文化共生の時代に生きる児童に違いを認めて理解し合う力や主体的に自分を表現できる力、豊かな社会性を身につけさせたい。

### 3 児童の実態 (男子 20名 女子 11名 合計 31名)

#### (1) 調査結果

- ① 海外の人と直接話をした経験はありますか? (ALTの先生以外)

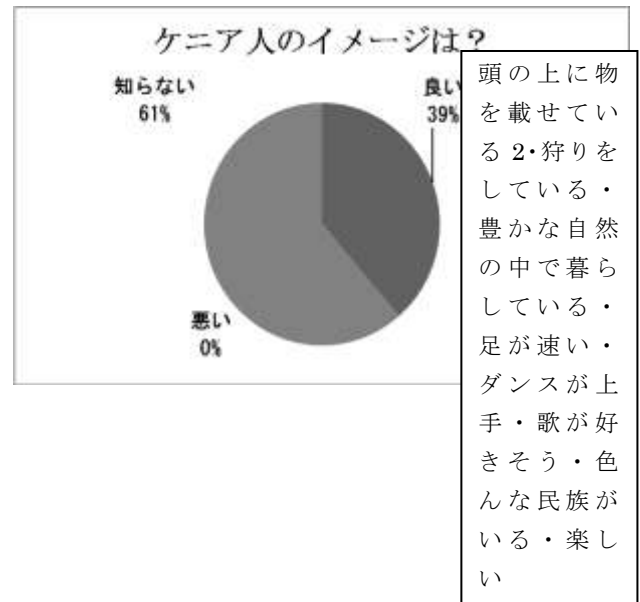
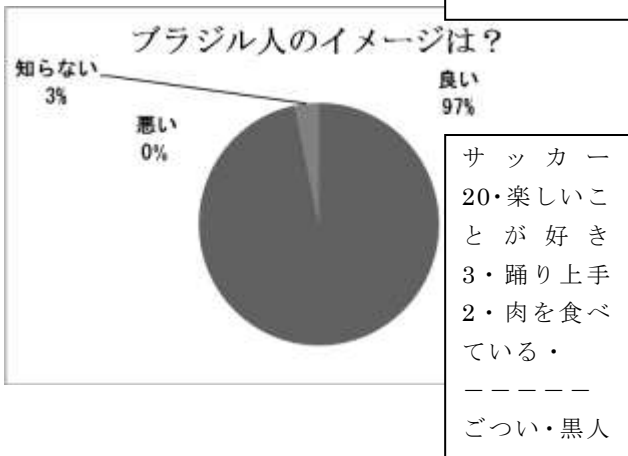
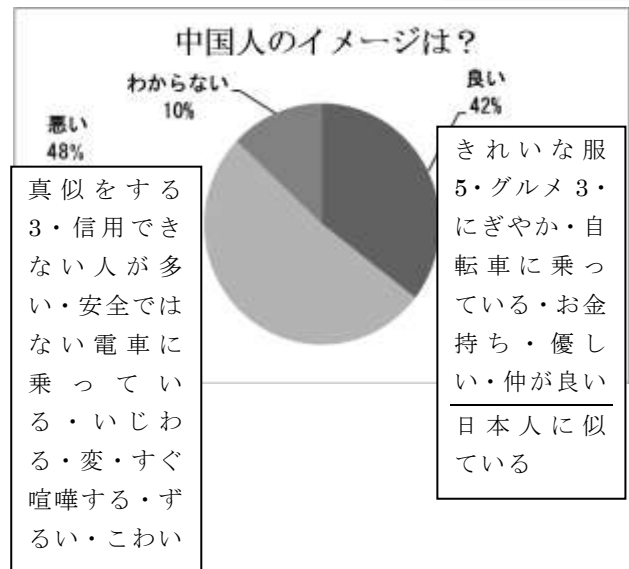
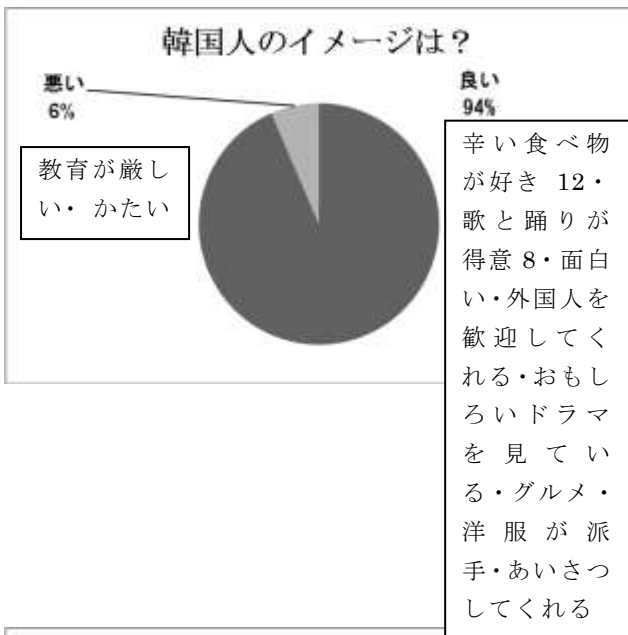
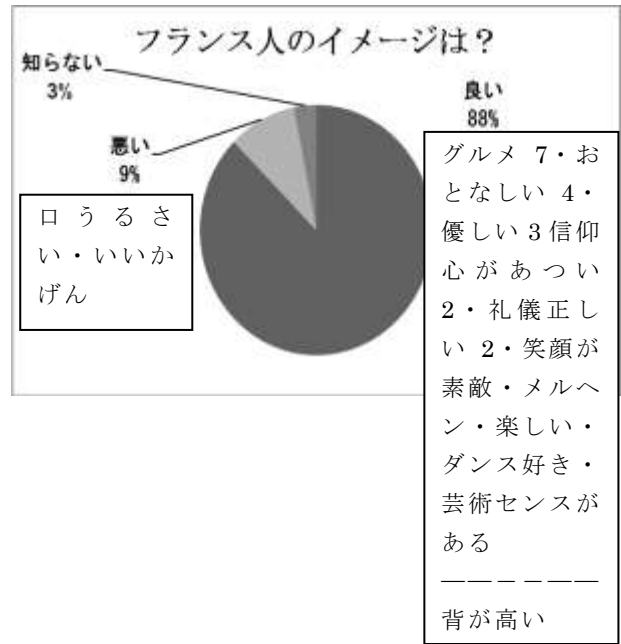
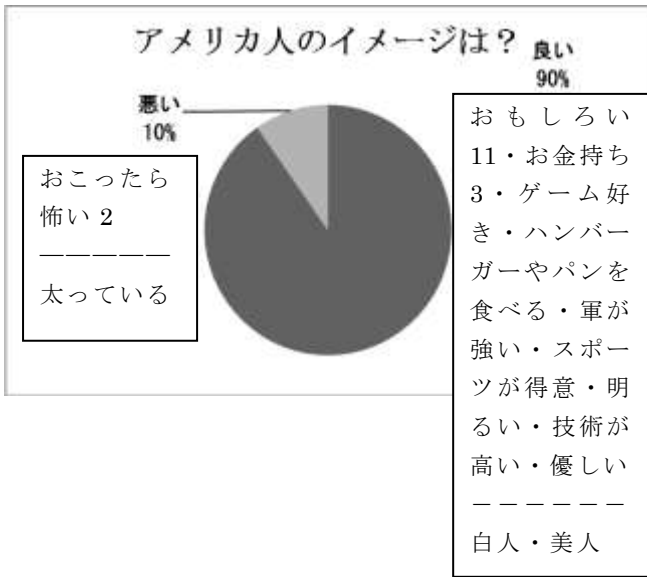
はい…16名 (英語で、身振り手振りで) いいえ…15名

- ② ①あると答えた人はどんな気持ちがありましたか。

●楽しかった、わかってもらえてうれしかった

▲緊張した、きちんと通じているのか不安だった、こわかった、はずかしかった  
聞き取れなくてわからなかった

③ 次の国の人々についてのイメージを書きましょう。



## (2) 考察

アンケートの結果から、半数の児童は ALT 以外の外国人とも交流があることがわかる。しかし習い事として英語を習っている児童が多く、交流しているのは「英語を話す外国人」に限定されている。

そして外国の人々のイメージについてのアンケートから、顕著なのは中国人のイメージが悪いことと、ケニア人のイメージがないことである。これは中華人民共和国についての報道がマイナス面を強調したものであることや、日本から遠い南アメリカ大陸やアフリカ大陸に馴染みがないからだと考えられる。

また、欧米人＝白人といった見た目の偏見を持っている児童もいる。本学級の児童には、外国籍の児童がいない。そこで、本授業を通して、普段触れることのない世界の人々について考えさせ、豊かな国際性を身につけさせたい。

## 4 研究主題との関連

心の国際化から、共に生きる社会へ  
－国際性豊かな児童生徒の育成を目指して－

「心の国際化」とは、外国や外国人に対し先入観や偏見を持たずに、互いに尊重していきこうという気持ちを持つことだと考える。そのためには、その国の良い面に着目できることが重要だと考える。それが、将来子どもたちが異なる国の人と「共に生きる社会」を作り上げる場面に出会ったときに必要な、豊かな国際感覚の土台となるだろう。

そのために本実践では、次のように視点を位置づけた。

視点① 豊かな国際感覚を身につけさせるための指導計画や学習過程の工夫に取り組む。

視点② 自国文化や異文化を理解させるための手立ての工夫に取り組む。

## 5 指導計画

### (1) ねらい

外国には様々な人々がいたり、文化があつたりすることを知り、それらを大切にしようとする心を持ち、世界の人々との親善に努めようとする。

### (2) 指導の流れ

時	児童の実態	学習内容と活動	指導や支援の手立て
1	○馴染みのない国々（特にアフリカ大陸、南アメリカ大陸）への関心が低い。	○フォト・ランゲージ ・写真からの情報を読み取り、自分の固定観念に気付く。 (アフリカの国々にも経済発展を遂げている国がある。) (貧しくても幸せそうな人々もいる。)	○子どもに馴染みのない、アフリカの国を取り上げることで、世界には様々な国があることに気付かせる。
2 (本時)	○中華人民共和国へのマイナスイメージを持っている。	○みんな仲よく？ ・外国にもそれぞれの国の良さがあり、それに目を向けられるようにする。	○考えを深められるよう、葛藤の経験を与える。

3	○外国の人から日本人がどう思われているかという視点を持つことができていない。	○日本人 ・外国の人から日本人がどう思われているか知る。 ・日本人の良さを見直すことができる。	○外国の人に「日本人は○○だ。」と言われていることが日本人全員に当てはまらないことが理解できるよう、資料「日本人の真っ赤なホント」を用いる。
---	--	---	--

(3) 視点との関連

視点① 豊かな国際感覚を身につけさせるための指導計画や学習過程の工夫に取り組む。

○指導計画の前半では、馴染みのない国について扱った。そして世界には色々な国があるということを踏まえて、後半では、自国の文化について見つめ直すことができるよう指導計画を立てた。

○児童の国際感覚を磨くためには、一人一人が主体的に自分の意見を持つことが必要だと考える。そこで、他の教科と関連づけて道徳の学習を展開し、理解を深められるようにした。

「世界の人々と共に生きる」

外国の人々や文化を大切にすることをもち、  
世界の人々と親善に努めようとする意欲を高める。

国語	社会科	学級活動	英語活動
○日本語のひびきを味わう ・漢文に親しむ  ○日本の文化を考える ・「物語」を楽しむ(古典)	○これからの食料生産とわたしたち ・輸入食料品  ○わたしたちの生活と工業生産 ・自動車の輸出 ・現地生産 ・貿易	○貿易ゲーム ・シミュレーションを通して、国によって環境が異なることを体験し、理解を深める。  ○二つの国 ・隣り合った国がそれぞれ公共施設を造るよりも、協力して造った方がよいことを体験し考えを深める。	○世界の「こんにちは」を知ろう  ○ジェスチャーをしよう ○いろいろな衣装を紹介しよう  ※ALT 講師の授業の後、復習として世界のあいさつやジェスチャー、衣装を重点的に扱って担任が英語活動を行う。

視点② 自国文化や異文化を理解させるための手立ての工夫に取り組む。

○児童の実態から、何に対して偏見を持っているのかを明らかにし、それをなくすための題材・資料を扱う。

6 本時の展開 (2 / 3)

(1) ねらい

自分が偏ったものの見方をしていることに気付くことができる。

(2) 展開

	主な学習活動と内容	教師の支援(◇)	予想される児童の反応(○)
導入	1 中国についてどのようなイメージを持っているか学級のアンケートをグラフで表す。 ① クラスの中国人のイメージは？ ② 中国人から見た日本人のイメージは？ ③ クラスの韓国人のイメージは？	◇ 中国について学級がどう思っているのか捉えられるよう、円グラフを提示する。 ◇ 相対する理由を取り上げることで、児童の問題意識を高める。	○ 真似するから悪いイメージ。 ○ 日本と似ているところがあるから、良いイメージ。 ○ 日本人が中国に悪いイメージを持っているように、中国人も日本に悪いイメージを持っている。
展開前半	2 【資料1】「みんな仲よく？」を聞く。 3 話の設定を整理する。 ① クラスでどのようなきまりを作ったか。 ② なぜワンイェンと明日香は言い争いをしてしまったのか。 ③ なぜ美紀は最後の場面で迷っているのか。 3 美紀がどうすべきか考え、そう判断した理由をワークシートに書く。	◇ 絵を提示し、イメージを捉えられるようにする。 ◇ ふきだして話の要点を整理することで、児童の資料への理解を深める。 ◇ 考えを整理しやすいよう、ワークシートを用意する。	○ 助けてあげよう。 ○ 明日香が、「中国って真似するよね。」と言ったからケンカになった。 <u>ワンイェンのところへ行く</u> ① クラスで助けようと決まったから。 ② 話せばワンイェンもわかってくれるかもしれないから。 ③ 謝ればいいんだよとアドバイスしてあげたいから。
展開後半	4 自分の立場を明らかにし、判断理由を発表する。 5 【資料2】を見て、気付いたことを発表する。 6 【資料2】について知る。 ① 中国の四川省で起きた大地震で活動した、日本の救助隊のニュース。 ② 中国の新聞で報道された。 ③ 中国で日本人に対する考えが変わった。 7 【資料2】の情報を知って、考えがどのように変化したか話合う。	◇ 資料についての理解を深められるよう、一人ずつ写真資料を配り、学級全体で把握できるようテレビ画面も大きく提示する。	○ 亡くなった人に黙とうを捧げている。 ○ きっと助けようとしたんだけど助からなかったんだと思う。 ○ 救助隊が日本の国旗をつけている。 ○ 看板が中国語で書いてある。 ○ 日本人のことを見直してくれてうれしい。

終末	8 自分が今後、世界の人々とのように付きあっていたいか、考えを書く。	◇ 今日の学習の感想や考えがまとめられるようにワークシートを用意し、今後の生活につなげられるようにする。	
----	------------------------------------	--	--

【資料1】 「みんな仲よく？」

5年3組に転校生が来ることになりました。それも、中国からの女の子です。どんな子が来るのかな？みんなはわくわくしながらその日を待っていました。もちろん美紀もその一人です。クラスみんなで話し合い、「ワンイェンさんがクラスで楽しく過ごせるように、優しく手助けしていこう。『みんな仲よく』だね。」とクラスの話もまとめ、美紀もそうしようと心に決めました。

ワンイェンは最初、大変緊張した様子でしたが、数か月たつと、日本語もだいぶ上達し、慣れてきた様子でした。授業中に手を挙げて発表したり、保健委員会で年下の子の手当てを手伝ったりできるようになりました。掃除の時間には、クラスの誰よりも机を多く運び、クラスの間みんなも感心していました。

しかし、ある朝…「昨日のテレビ見たー？」クラスの間みんながテレビで見たニュースの話をしていました。それは、ワンイェンの国、中国が日本の商品を真似して偽物を作っているというニュースでした。美紀は何だかワンイェンに悪いような気がしてあまりその話をしないようにしていましたが、友達の日香が「中国人って偽物作るの得意だね。」と笑いながら話しかけました。すると、「日本人ハ中国人、馬鹿ニシテル。決メツケダ！！」と激しく言い返してきたので、言い合いになってしまいました。そして、ケンカの原因を作ってしまった日香は「こんなにワンイェンが怒ると思わなかった。ごめんね。」と言って泣きだしてしまいました。しかし、ワンイェンは謝ろうとしません。

さて、美紀は、どうすれば良いのでしょうか。

【資料2】



写真の出典：<http://china.jinghua.cn/c/200805/23/n1083916.shtml>

【板書計画】

**美紀はどうするべき?**

**クラスの話し合い  
「みんなで助けよう」**

ワンイェン

中国からの転校生。ケンカしても謝らない!!

<ワンイェンのところへ行く>

- クラスで助けようと決まったから。
- 話せばワンイェンもわかってくれるかもしれないから。
- 謝ればいいんだよとアドバイスしてあげたいから。

美紀

どうしよう…。

<クラスで話し合う>

- クラスの中でのことだから、クラスみんなで考えるべき。

明日香

中国の悪口を言ってしまった。謝ったのに。

<明日香のところへ行く>

- 友達だから。
- 明日香は間違いを認めたいい子だから。

**黙とうをささげる日本の救助隊**

- 中国の新聞で紹介された。
- 日本人にたいする感謝。

日本人のいいところが  
見直された

これから中国の人は悪い人と決めつけない。  
これから世界の人のいいところもみていきたい。